

三菱自動車、コンパクト SUV『エクスフォース』の HEV モデルをタイで世界初披露 ～電動車ならではの気持ちよい走りと優れた環境性能・快適性を実現～

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）は、コンパクト SUV『エクスフォース』のハイブリッド EV（以下、HEV）モデルを新たに設定し、本日、タイ・バンコクで世界初披露しました。同車は、タイにおける生産・販売会社であるミツビシ・モーターズ・タイランドのレムチャバン工場で生産し、本日よりタイで受注を開始します。本モデルは 3 月 24 日から開催される第 46 回バンコク国際モーターショー^{*1}に出展します。



『エクスフォース』は「Best-suited buddy for an exciting life（毎日を愉しく過ごすことができる頼もしい相棒）」をコンセプトに、アセアン地域での使われ方にこだわって開発した、5 人乗りのコンパクト SUV です。2023 年 11 月にインドネシアで発売した後、2024 年にはベトナムやフィリピンなどのアセアン地域、中南米やアフリカ、中東などに展開を拡大した世界戦略車のひとつで、スタイリッシュかつ力強い本格的な SUV デザインを有し、取り回しの良いコンパクトなボディサイズでありながら、5 人乗車でも広々とした快適な居住空間が評価されています。

今回追加する新型『エクスフォース』の HEV モデルは、2024 年 2 月にタイで発表、発売した『エクスパンダー』『エクスパンダークロス』に続く三菱自動車の HEV シリーズで、タイにおける電動車の選択肢を広げます。

コンパクト SUV ながら、三菱自動車が誇るプラグインハイブリッド EV(PHEV)由来の HEV システムを搭載し、より高効率で優れた環境性能と力強い加速性能で『エクスフォース』の魅力をいっそう高めました。FF方式の 2WD をベースに、アクティブヨーコントロール(AYC)を始めとした独自の四輪制御技術により、ドライバーの意のままの安全・安心な走りを提供します。また、HEV でありながらドライバーがシチュエーションに応じて積極的に EV 走行を選択することができるため、静かさが求められる場面でも周囲に気兼ねなく走行することが可能です。

当社社長 加藤隆雄のコメント

「近年、HEV は充電インフラを必要としない電動車の有力な選択肢のひとつとしてグローバルでますます需要が高まっています。このような環境の中、三菱自動車の最重要市場の一つであるタイに『エクスフォース』の HEV モデルをラインアップに加えます。タイ市場において『エクスパンダー』の HEV モデルと併せて電動化を推進するとともに、今後は他市場へ

の展開も検討していきます。」

『エクスフォース』HEV モデルの主な商品特長は以下の通りです。

- (1) 「Silky & Solid」をコンセプトとした内外装デザイン
- (2) 環境性能と動力性能を両立させた三菱自動車独自の HEV システム
- (3) すべての乗員が心地よく過ごせる快適性と高い実用性や安全性
- (4) 走行状況や天候・路面によって最適な走りを実現する 7 つのドライブモード

商品概要（タイ仕様）

(1) 「Silky & Solid」をコンセプトとした内外装デザイン

① スタイリッシュで力強いエクステリア

- ・ 優雅さと堅牢性を融合させた「Silky & Solid」をコンセプトに作りあげられたスタイリッシュかつ力強い本格的な SUV デザインは、都会からアウトドアシーンまで圧倒的な存在感を発揮します。ボディ上部はフロントのスリーダイヤからサイド、リヤへと連続的に繋がり流れるような面と、浮いているような視覚効果を与えるフローティングルーフによって、シルクのように滑らかな軽やかさを表現しています。ボディ下部は、SUV らしい力強くソリッドなプロポーションとし、183mm の最低地上高や、空力性能を向上した専用の 18 インチアルミホイールと大径タイヤによって悪路走破性を確保。がっしりとした筋肉を思わせるフェンダーフレアの造形で、アスリートのような敏捷性を感じさせるデザインとしました。
- ・ コンセプトに合わせて進化した「ダイナミックシールド」は、フロントグリルを左右バンパーでプロテクトする造形と立体的に一体化させることで、奥行き感のあるスポーティなフロントフェイスを表現しました。ボディサイドは彫刻的な前後フェンダーフレアやキャラクターラインによって、立体的な面構成にメリハリをつけ、SUV の逞しさや躍動感を表現しています。LED デイタイムランニングランプと LED テールランプは、ともに T 字型に発光させ、アイコンニックなデザインとするとともに、ワイドで安定感のあるスタンスを強調しています。
- ・ 電動車の先進性を表現するブルーをアクセントカラーにした「HEV」バッジをフロントグリルとテールゲート、「HYBRID EV」バッジをフロントドアにあしらいました。ボディカラーは、クリーンなイメージを与えるホワイトダイヤモンド、エナジェティックイエロー、レッド、グラファイトグレーメタリックにはルーフカラーがブラックの 2 トーンカラーを設定。モノトーンはホワイトダイヤモンド、グラファイトグレーメタリック、ブレードシルバーメタリック、ジェットブラックマイカの計 8 色を用意しました。

② 先進的かつ実用性の高いインテリア

- ・ インテリアでは、水平基調の「HORIZONTAL AXIS（ホリゾンタル・アクシス）」コンセプトのインストルメントパネルを採用し、前方の視認性を高めるとともに、悪路走行時の車体姿勢の変化をつかみやすくしています。また、パネルのパッド素材にはメランジ生地を採用。モダンで洗練された印象を与えながら、汚れにも強い実用性の高い生地によって、自宅のリビングルームのように落ち着いて過ごすことができる快適な空間に仕上げました。また、12.3 インチのスマートフォン連携ディスプレイオーディオとデジタルドライバーディスプレイを一体化させた大型のモノリス形状のパネルと、コンパクトなパワー

- シフトによってHEVらしい先進感を演出しています。
- シフトパネル、パワースイッチパネルの塗装には傷のつきにくさを向上したピアノブラックを採用しました。



(2) 環境性能と動力性能を両立させた三菱自動車独自の HEV システム

- 三菱自動車初となる『エクスパンダー』のHEVモデルから、HEVシステムを進化させました。伝達効率を向上させた新開発のトランスアクスル及び、高速領域においてモーターをドライブシャフトから切り離すモーターディスコネクト機構を新規に追加することで、エネルギーロスを大幅に低減し、クラストップレベルの燃費となる約 24.4 km/L^{*2}を実現します。
- ハイブリッド走行では2速ギアシステムを採用し、高速走行時の静粛性と登坂時の加速性を両立しました。さらにモーター、ジェネレーター、トランスミッションを一体化することで、高周波ノイズを大幅に低減。これらによりEVらしいシームレスな走行フィーリングを実現しました。
- 走行モードはEVモード、ハイブリッドモード、回生モードで構成されます。走行状況や駆動用バッテリー残量に応じて、システムが最適な走行モードを自動で選択して低燃費化するとともに、力強く気持ちのよいモータードライブを実現します。発進時や低速域では、駆動用バッテリーからの電力でモーター駆動するEVモードによって、電気のみで走行(図1)。登坂時や加速時は、エンジンを発電用として動かして駆動用バッテリーの電力と合わせてモーターで走行し(図2)、高速域では、エンジンの動力で走行してモーターがアシストするハイブリッドモードに切り替わります(図3)。さらに今回追加したモーターディスコネクト機構により、アクセル操作の少ない高速域では、モーターとドライブシャフトが接続されない状態となり、駆動抵抗を低減し、燃費が向上します。回生モードでは、減速時に回生ブレーキによって減速エネルギーを回収して電力変換し、駆動用バッテリーに蓄電します(図4)。EVらしい静かでクリーンなモータードライブと、電欠の心配をすることなく長距離ドライブを楽しめる、HEVならではの走りを実現します。



EV モード (図 1)



ハイブリッドモード (図 2)



ハイブリッドモード (図 3)



回生モード (図 4)

- 『エクスフォース』の HEV モデルには、高出力なモーター、ハイブリッド専用開発した高性能な駆動用バッテリーを採用。また、エンジンは『エクスパンダー』の HEV モデルにて初搭載された、競合トップレベルの熱効率に優れた HEV 専用の 1.6L DOHC 16バルブ MIVEC^{*3} エンジン従来より高出力化して搭載しています。電動ウォーターポンプを採用することでエンジン燃費の向上、補機駆動損失を低減して 40%を超える熱効率を達成し、燃費向上に寄与しています。このガソリンエンジンに、ジェネレーターと最高出力 85kW のモーターを組み合わせたことで、電動車ならではの滑らかで力強くレスポンスの良い加速を実現しました。

(3) すべての乗員が心地よく過ごせる快適性と高い実用性や安全性

① クラストップレベルの広々とした室内空間

- コンパクトなボディサイズでありながら、すべての乗員がゆったりと過ごせる広々とした室内空間を実現しました。前席では、肩口のゆとりなど、クラストップレベルの座席空間を確保し、快適性を高めています。座席においてはサポート性とゆとり感を両立させることで、レーンチェンジや荒れた路面などでも体が左右に揺れにくく、渋滞時でもゆったりと過ごすことが可能です。後席では、大人 3 名が乗車しても快適に過ごせる空間にこだわりました。クラストップレベルの座席空間を確保することで、ゆとりある足元スペースを実現し、3 名乗車時でも快適に過ごせるよう配慮しています。また、リクライニングは 8 段階調整とし、乗員がゆったりと座れる角度から、荷室容量をより広く確保できる角度まで、幅広いニーズをカバーしています。

- ② 快適で楽しいドライブを提供する「ダイナミックサウンドヤマハプレミアム」
- ・ ヤマハ株式会社と共同開発したオーディオシステム「ダイナミックサウンドヤマハプレミアム」を搭載^{*4}。すべての座席で高品質な音楽を快適に楽しめる 8 スピーカー構成とし、両サイドの A ピラーにフロントツイーター、フロントドアにウーファー、リアドアにはウーファールの同軸上にツイーターをレイアウトしたコアキシャル 2-way スピーカーを配置しています。スピーカーの性能を最大限に発揮できるよう、車両側に最適な音質向上策を施すと同時に、走行時は車速に応じて音量と音質を補正することで、荒れた路面でも輪郭のはっきりした中高音と躍動感のある低音を楽しめます。また、4つのサウンドタイプ、ライブラリー（初期設定）、シグネチャー、パワフル、リラクシングを設定。好みや気分によって選択することで、より快適で楽しいドライブ体験を提供します。
- ③ 直感的な操作を実現する 12.3 インチのスマートフォン連携ディスプレイオーディオ
- ・ 先進的かつ、安心して快適な運転環境を提供する 12.3 インチのスマートフォン連携ディスプレイオーディオは、起動時にオリジナルのオープニングムービーが再生されます。マルチウィジェット表示では、画面を 3 分割することで 1 画面に多くの情報を表示することが可能。また、往年の『パジェロ』で使われていた 3 連メーターをオマージュしたマルチメーター表示では、高度や前後左右傾斜、方角などの情報を組み合わせて表示することで、運転の楽しさを高めています。また、Apple CarPlay[®]^{*5}、Android Auto[™]^{*6}、WebLink[™]^{*7}を搭載し、スマートフォンとの連携が可能。さまざまなアプリケーションをワイドな画面で楽しむことが可能です。
- ④ 便利で豊富な収納と多彩なラゲッジルーム
- ・ 車内の各所に使い勝手のよい便利な収納スペースを豊富に用意しました。ドアトリムやフロアコンソールなどには、計 21 本の 600mL ペットボトルが収納可能なドリンクホルダーを設置。フロアコンソールには空調の冷気を利用して飲み物を冷やすことができるドリンククーラーを設けました。またセンターコンソールにワイヤレスチャージャー、前席と後席それぞれに USB Type A と Type C のポート、各席にスマートフォンを置けるスペースを用意するなど、スマートフォンに配慮した収納スペースも充実させました。
 - ・ コンパクトなボディサイズかつ広々とした居室空間を持ちながら、十分なラゲッジルームも確保することで、スーツケースなどの大型の荷物でもゆとりをもって積み込めます。また、後席のシートは 4：2：4 分割を可能とすることで、4 名がゆったりと座ったまま長尺物を積むことができるなど、高い積載性を実現しています。
- ⑤ アセアンの安全基準に配慮した ADAS
- ・ アセアンの車両安全性に対する意識の高まりに対応するため、先進運転支援機能「Mitsubishi Motors Safety Sensing」^{*8}（ADAS）を搭載。また、パッシブセーフティ（6 エアバック）、前後パーキングセンサーを ASEAN NCAP の 5 つ星を基準として開発しました。乗員すべての安心・安全をサポートします。
- (4) 走行状況や天候・路面によって最適な走りを実現する 7 つのドライブモード
- ・ EV 走行のための 2 つのモードに加え、路面状況に応じて最適な操縦性と駆動制御を行う 5 つのモードの、合計 7 つのドライブモードを設定しました。各モードはスイッチ一つで簡単に切替えることができ、ブレーキ制御、エンジン制御、モーター制御、ステアリング制御を駆使し、タイで想定されるさまざまな路面を安心して走破することができます。
 - ・ 「EV プライオリティ」「チャージ」では、ドライバーがシチュエーションに応じて積極的に EV 走行を選択することができます。エンジンを始動させることなく、駆動用バッ

テリから電力でモーター駆動する「EV プライオリティ」は、環境に優しく、静粛性が高いため、静かさが求められる場面でも周囲に気兼ねなく走行することが可能です。駆動用バッテリーの残量が少なくなっても、「チャージ」に切り替えれば、バッテリーに充電することができ、EV 走行を積極的に楽しむことができます。

- 路面状況に応じた制御を行う 5 つのドライブモードは、FF 方式の 2WD をベースとしながら、前輪左右の駆動力を調整して高い操縦性を実現するアクティブヨーコントロール (AYC)、前輪のスリップを制御するトラクションコントロール、四輪の安定性を制御するアクティブスタビリティコントロール、加速時のモーターやエンジン出力を調整するアクセルレスポンス制御、速度域や路面状況に応じてステアリングの手ごたえを調整する電制ステアリングなどを統合制御することで、さまざまな路面状況に対応することが可能です。日常走行でのバランスが取れた「ノーマル」、ワインディングロードなどでキビキビとした走りや意のままのハンドリングを実現する「ターマック」、未舗装路で滑りやすさを抑えて安心感のある操縦性を発揮する「グラベル」、ぬかるんだ悪路でも力強い走破性を発揮する「マッド」、雨天時の濡れた路面でもタイヤのスリップを抑えて高い安定性を発揮する「ウェット」によって、いかなる気候や路面状況においても、安全・安心な走りを実現します。



アクティブヨーコントロール (AYC)



- ドライブモードの切り替えは、センターコンソールにあるトグルスイッチにて運転中でも直感的な操作が可能です。その他にも、8 インチのデジタルドライバーディスプレイにはアクセル操作に連動して「エコ」「パワー」「チャージ」状態を示すパワーメーターや、エネルギーフロー、EV 走行比率、バッテリー残量など、HEV ならではの情報を表示してドライバーに分かりやすく伝えます。また、ディスプレイは、グラフィックを好

みに合わせて変更したり、スクリーンを広く使ってコンテンツを表示することが可能です。

- *1：正式名称は The 46th Bangkok International Motor Show。3月24日（月）はプレスデー、3月25日（火）はグランドオープニング・VIPデー、3月26日（水）～4月6日（日）一般公開日として開催。
- *2：NEDCモード。カタログ燃費は規定の方法にそって測定した結果であり実際の燃費は異なります。
- *3：MIVEC（Mitsubishi Innovative Valve timing Electronic Control system）は、三菱自動車の可変バルブタイミング機構の総称です。
- *4：最上級グレードの ULTIMATE X に搭載
- *5：Apple CarPlay[®]は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc.の商標です。
- *6：Android Auto[™]は Google LLC の商標です。
- *7：WebLink[™]は Abalta Technologies, Inc.の登録商標です。
- *8：『エクスフォース』HEV モデルには次の6種の先進運転支援システムを搭載。
 - ・レーダークルーズコントロールシステム [ACC] Adaptive Cruise Control
 - ・衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] Forward Collision Mitigation System
 - ・オートマチックハイビーム [AHB] Automatic High Beam
 - ・先行車発進通知 [LCDN] Leading Car Departure Notification
 - ・後退時交差車両検知警報システム [RCTA] Rear Cross Traffic Alert
 - ・後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW / LCA] Blind Spot Warning with Lane Change Assist

以上